



豊かな子

創造的な実践力に富む、心豊かで、たくましい子どもの育成

明るく、思いやりのある子
夢に向かって、自ら学ぶ子
身体を鍛え、最後までやりぬく子



前期終業式で話したこと

今日10月8日は、前期が終わる終業式です。サッカーで例えると、夏休みという給水タイムをはさんで続いた長い前半が終わったところです。前半が終わると監督から前半のナイスプレーや後半のアドバイスについて話があります。

同じように今日渡される「れんらく表」も、前半のみなさんの成長や後期に頑張っしてほしいという、担任の先生（監督）からメッセージです。数日間のハーフタイムにお家の方と前期を振り返り、後期はこんなふうに頑張ろうと話しましょう。

私も前期の間に話をした3つのこと、①相手を思いやる1秒の言葉を大切に（4/8 始業式）②自分のことは自分で（4/10 入学式）③授業の選手になろう（8/27 前期後半始めの集会）をふり返ってみました。

①「おはようございます!」「ありがとうございます」「だいじょうぶですか?」など、たくさんの温かい言葉をかけてもらいました。地域の方への挨拶や止まってくださった車へのお辞儀なども見られます。②1年生も4月は6年生に手伝ってもらっていましたが、今では何でも自分でできるようになりましたね。③9月には2年生や3年生の授業を見る機会がありましたが、しっかり考え、周りの人と考えを伝え合っていました。

このように、みなさんの成長がいろいろな場面で感じられた前期でした。

1年生によるふり返りの発表



終業式では1年生のクラス代表3名が前期のふり返りを発表しました。4月からできるようになったことや後期に頑張りたいことという内容でした。マイクの入りが悪く、2回発表してもらった子もいましたが、みんな聞き取りやすい声で話せました。

ところで、子どもたちが何かの節目でふり返りを書く際、「できたこと」や「これからの目標」といった決まった「型」に沿って書くことには、大きな意味があります。

まず「型」が安心して自分を表現するためのガイドとなります。文章構成の枠組みがあることで、書くのが苦手な子も迷わず自分の言葉を組み立て、成長をふり返る文章を仕上げるができるのです。

また聞き手にとっても、何が話されるのか、全体の流れが把握しやすいため、発表の内容や具体的な思いに集中して耳を傾けられるという良さがあります。

子どもたちが何を感じていて何を語るのか。「型」が同じだからこそ、一人ひとりの思いや個性がより際立ちます。